

研究課題番号	1-2101
研究課題名	世界全域を対象とした技術・経済・社会的な実現可能性を考慮した脱炭素社会への道筋に関する研究
研究実施期間	2021 年度～2023 年度
研究機関名	京都大学
研究代表者名	藤森真一郎

1. 委員の指摘及び提言概要

統合評価モデル（AIM）を基礎にして、その改良と拡張により脱炭素の実現性を問う 3 つの代表的なシナリオをその定量性評価結果も含めて提示し、多くの学術的成果をあげるとともに、環境行政の方策検討に寄与したことを評価する。研究目標、研究方法、成果とも大変優れている。学術論文 50 報以上の発出、IPCC の第 6 次報告書への貢献、YouTube などによる成果のアウトリーチなど、申し分のない成果である。ただ、「実現可能性」と「望ましさ」の認知には大きな隔たりがあり、社会に受け入れられるため市民の適切な理解を誘導するための情報提供の在り方など、社会的な実現性に関する考察や検討を精査されたい。成果として従来の代表的なシナリオとは一線を画すシナリオも提示されており、今後の議論の広がり期待する。この成果が環境政策に活かされるよう、さらなる研究と、行政・社会への働きかけの継続を期待したい。

2. 採点結果

評価ランク：S